


<p>学校教育目標 「生き生きした 活力のある子」</p>  <p>学校だより</p> <p>さいたま市立大牧小学校</p>	<p>平成30年度 8・9月号 No417 平成30年8月28日 発行</p>	<p>8・9月の目標</p> <p>◎規則正しい生活をしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活リズムを取り戻そう。 ・時計を見て行動しよう。
--	---	---

実り大きい2学期へ

校長 間宮 和宏

厳しい暑さの酷暑が続き、プールが中止となってしまったかと思えば、通常とは異なる動きをする台風等、例年にないことが続いた平成最後の夏休みが終わりました。しかしながら、大牧小では、保護者、地域の皆様のおかげで大きな事故や怪我もなく2学期が無事むかえることができますことを本当に喜ばしく思います。夏休み中もいろいろな面でご協力いただきましてありがとうございました。

さて、8月10日に行われました「さいたま市いじめシンポジウム」には、本校からも児童会代表として、6年生の増田さんと櫻田さんが出席しました。その中で、5年目を迎えたこの「いじめ防止シンポジウム」についての意義や歴史を振り返ったり、全国いじめ問題子どもサミットに参加した中学生の報告や市内の小中学校のいじめ防止に向けた取組などが発表されたりしました。また、さいたま市子ども会議議長団等によるフリーディスカッションでは、「いじめ撲滅さいたま宣言」の行動力を高めるためにマンネリ化とならないように一人ひとりの意識づくりと行動力の必要性が訴えられ、新たな問題として挙げられているSNSによるいじめ問題についても提案され、改めて「許さない誓い～わたしたちのノー！～」と「起こさない誓い～わたしたちのイエス！～」を確認し、問題の中心にいる自分たちが本気になり、行動を起こそうという気概がひしひしと伝わってきました。本校も中学校区で話し合いを行いました。子ども会議での真剣な様子が映像に写し出され、「いじめを許さない！起こさせない！」という思いが伝わってきました。そして最後にさいたま市PTA協議会、青少年育成さいたま市民会議等の後援団体からのいじめ防止に向けたメッセージが送られ、市を挙げて、いじめを起こさせない見逃さない環境づくりを前進させることも確認しました。

シンポジウムに参加して、少し前に読んだ宮澤章二さんの「行為の意味」という詩の一切を思い出しました。ここに書かれているように、2学期もたくさんの行事や取組がありますが、それぞれが相手のことを思い合い、よりよく生きようとしていく行為をいろいろな場面で表現していってくれと願っています。

また、8月7日には子ども伝統文化祭がさいたま市文化センターで行われ、本校からは、見沼太鼓クラブが発表を行いました。トップバッターというプレッシャーもあったかと思いますが、日頃のクラブでの取組、学期末の練習の成果を発揮して見事なばらさばきで会場を魅了してくれました。

2学期は運動会に始まり、なかよし音楽会や持久走会、校外学習やたっぴーカーニバルなどのたくさんの行事が行われます。そして、一番長い学期ということで学習でも読書でも集中して取り組むことができるでしょう。様々な場面で、それぞれのよさを発揮し、充実した生活で成果をあげられるよう指導・支援をしていきたいと思っております。

今学期も保護者の皆様、地域の皆様のご支援・ご協力をよろしく申し上げます。

行為の意味

宮澤 章二

確かに「こころ」はだれにもみえないけれど「こころづかい」は見えるのだ
それは人に対する積極的な行為だから

同じように胸の中の「思い」は見えないけれど「思いやり」は誰でも見える
それも人に対する積極的な行為なのだから

あたたかい心があたたかい行為になり
やさしい思いがやさしい行為になるとき
「心」も「思い」も初めて美しく生きる…
それは人が人として生きることだ